

## ごあいさつ

---



曙ブレーキグループ（akebono）は1929年の創業以来、お客様へ「安全と安心を提供する」という使命の下、さまざまな課題にチャレンジしてまいりました。そして2014年、創業85周年を迎えることができました。これもひとえに、関係する多くの皆様方にいただいたご支援ご協力の賜物と、心より御礼申し上げます。あわせて、グループをこれまで築いてこられた諸先輩、社員とそこご家族の皆様方に深く感謝申し上げます。

akebonoは85年の歴史の中で、3つの転換期を迎えました。第1の転換期は日本のモータリゼーションを目前に控えた1960年、世界的なブレーキメーカーだったアメリカのベンディックス社との技術提携です。これを契機に総合ブレーキメーカーへと大きく飛躍しました。第2の転換期は1986年、世界最大の自動車メーカー GM社との合弁会社をアメリカ・ケンタッキー州に設立し、本格的な海外展開を図りました。そして2010年、ドイツのRobert Bosch GmbHの北米ブレーキ事業を2009年末に譲り受けたことを機に、急激に拡大するグローバル化に挑戦するという、第3の転換期に突入しました。

2014年の年央来、私はakebonoの立ち位置を「小規模専門独立製造会社」と表しております。「小規模」が故に何事も迅速に決めることができる、一方で、運用可能な資金調達力は限られることから戦略を明確にしなければならない。ブレーキ「専門」であるが故に深い知見を有している、それを一層、深掘りしていかなければならない。「独立」系企業であるが故に決断の自由度が高い、一方で、助けてもらえる保証はない。「製造」に特化しているが故に知恵が育ち、無から有を生み出せる、一方で、知恵が出なくなれば競争力もなくなる。経営環境が急速に大きく変化する中、自らも変化に対応し、選ばれ続ける企業になる。そのためには、85周年を機にこの立ち位置を改めて認識し、100周年に向けて行動しなければならないと考えております。

創業85周年の節目に「曙の理念」を基に改めて原点に立ち返り、歴史を振り返り過去に学び、将来を考え、社員が一体感を持ち、全員で次世代のベースを創り上げていく所存ですので、akebonoに対し、引き続き変わらないご理解とご支援をお願い申し上げます。

2015年6月

曙ブレーキ工業株式会社  
代表取締役社長

信元久隆